

【2010年度 第1回医療委員会 議事録】

日時：2010年5月29日(土) 11:30～13:40

場所：廣瀬第1ビル2階会議室

出席委員：芦田隆司委員、天野慎介委員、遠藤智子委員、及川耕造委員、菊地陽委員、
田中淳司委員、土田昌宏委員、永利義久委員、廣川誠委員、森慎一郎委員
(計10名、五十音順)

欠席委員：岡本真一郎副委員長、宮村耕一委員

事務局：平井全常務理事、小瀧美加、鳥島篤子、大西礼、桑山恵理子、佐藤あずさ、
小川みどり

公開

審議・確認事項

1. ドナーが採取後に血液疾患を発症した場合の審査における判断基準の確認

最近、ドナーが骨髄採取後に血液疾患を発症した例が2件続いた(CML、形質細胞性白血病)。本委員会で移植施設に伝えるかどうかの審査をする際の判断基準として、「採取の時点で発症していたということが否定できない可能性が示唆される場合には伝える」ということが確認された。

2. 患者さん・ご家族用の冊子「骨髄バンクと骨髄移植」改訂について

年末の改定にあたり、現在掲載されている「骨髄バンクでの移植成績」の今後の取り扱いについて、事務局より以下の説明があった。

- ・ データー一元化に伴い、2007年度版を最後に、JMDP 単独の成績報告書は発行しなくなった。現在は、当財団、血縁成人領域/小児領域、さい帯血バンクが1冊にまとめられ「全国調査報告書(以下、学会報告書)」として日本造血細胞移植学会から発行されている。
- ・ これには、当財団が患者用冊子に掲載していた解析項目がほとんどなくなったため、移植成績の更新ができない。

<出された意見>

- ・ JMDP の患者用冊子の改訂は約2年に一度しか行わない。一方、学会HPのデータは毎年更新されているため、最新データを提供するという意味では、JMDP 冊子からは削除し、データを閲覧できる場所を案内するという方法もある。
- ・ インターネットを使えない患者さんも多いため(登録患者の半分以上が50歳以上)、患者の立場で考えると冊子による情報提供は有り難い。

< 結論 >

一元管理委員会に対して、解析項目を追加してほしい旨を要望する。具体的な追加項目は、JM DP 患者冊子に掲載されている項目のうち、CML のインターフェロン投与期間別生存率を除く全てとすること（無病生存率、年齢別、HLA 適合度別、など）。学会報告書に項目追加されるまでの間は最新データではないことを明記した上で 2007 年度版を掲載し、最新データを閲覧できる場所（学会 URL）を案内すること。

報告事項

1 . ドナーを選択する医師について（登録医師か移植医師か）

- ・ 現行では、ドナー検索結果は、登録責任医師にのみ報告（ファックス送信）しているが、ドナー選択ははじめから全て移植担当医師が行いたいという移植施設からの複数の要望があることが事務局から報告された。
- ・ しかし一方で、移植を急ぐ必要のない患者の経済的負担を最小限におさえるために、進行ドナー数を制限したいなどの要望がある場合には、登録責任医師が開始ドナーを選んだ方がよいこともあるとの意見もあり、今後は、希望に応じて、登録責任医師、移植担当医師のどちらか一方にドナー検索結果を報告する仕組みに変更する（ただし、システム構築が必要なため、すぐの対応は困難）。

2 . 新しい HLA Nomenclature への移行

事務局より、以下の報告があった。

- ・ HLA アリル命名規則変更に伴い、検査会社では、7 月から新表記対応を開始するが、JM DP では、日赤、さい帯血バンクと歩調をそろえるため、早くても年度末の開始となる。
- ・ 7 月以降、検査会社からコロン付きで届いた HLA 結果を JM DP で旧表記に変換して医師に報告する予定。

以上